

宗 像

朝町山・口 I

宗像市文化財調査報告書

第 14 集

1984

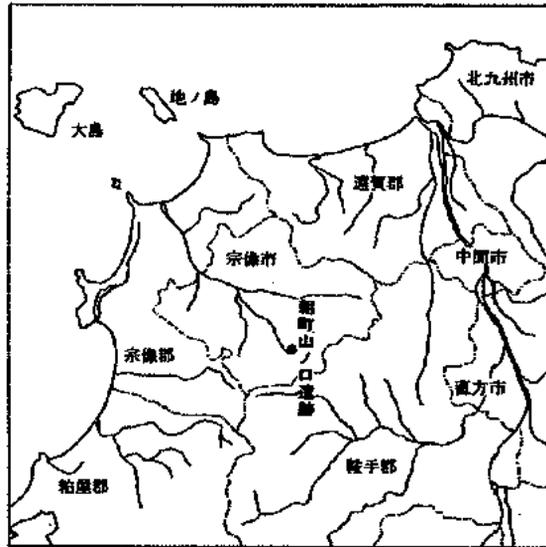
宗 像 市 教 育 委 員 会

宗 像

朝町山・口 I

宗像市文化財調査報告書

第 14 集



1984

宗像市教育委員会

序 文

本書は、今年度中に発掘調査を実施した県営ほ場整備に伴う発掘調査の成果を取っております。

本書が、広く文化財保護及び学術研究に貢献することを念願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力をいただいた多くの方々から感謝の意を表する次第であります。

昭和59年3月31日

宗像市教育委員会

教育長 竹 原 瑛

例 言

1. 本書は、1982・1983年度に国・県の補助を受けて実施した宗像市内遺跡の文化財発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となり、福岡県教育委員会文化課の応援を得た。
3. 本書使用の図の作製、製図は浜田信也、原俊一、安部裕久、赤司善彦、清家直子、徳永映子が行った。
4. 本書使用の写真撮影は、原が行った。
5. 本書の執筆編集は、原が行った。
6. 本書の題字は城月かよ子による。

本 文 目 次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	遺跡の地理的環境	2
第 3 章	発掘調査の概要	5

挿 図 目 次

		本文頁
第1図	発掘調査された遺跡 (1/25000)	4
第2図	遺構の名称	5
第3図	調査区図 (1/2000)	6
第4図	遺構配置図 (1/500)	7
第5図	1号墳主体部実測図 (1/40)	8
第6図	2号墳主体部実測図 (1/40)	9
第7図	3号墳主体部実測図 (1/40)	10
第8図	4号墳主体部実測図 (1/40)	11
第9図	5号墳主体部実測図 (1/40)	12・13
第10図	6号墳主体部実測図 (1/40)	14
第11図	7号墳主体部実測図 (1/40)	15
第12図	8号墳主体部実測図 (1/40)	16
第13図	9号墳主体部実測図 (1/40)	17
第14図	10号墳主体部実測図 (1/40)	18
第15図	11号墳主体部実測図 (1/40)	19
第16図	12号墳主体部実測図 (1/40)	20
第17図	13号墳主体部実測図 (1/40)	21
第18図	14号墳主体部実測図 (1/40)	22・23
第19図	15号墳主体部実測図 (1/40)	24・25
第20図	16号墳主体部実測図 (1/40)	26
第21図	17号墳主体部実測図 (1/40)	27
第22図	18号墳主体部実測図 (1/40)	28
第23図	19号墳主体部実測図 (1/40)	30・31
第24図	20号墳主体部実測図 (1/40)	32
第25図	21号墳主体部実測図 (1/40)	33
第26図	22号墳主体部実測図 (1/40)	34

第1章 はじめに

1981年5月、朝町蒲谷古墳群の調査中に、今回の報告となった畑地の一部が耕作中に陥没し空洞があるとの連絡を受けて現地に急行したところ、陥没墳は古墳の石室であった。さらに周辺の踏査によって、畑地の縁辺に古墳の石材らしきものが散在しており、確認できた古墳のほかになお1～2基程度の古墳の存在を推測するに至った。このことと併行して当該地が次年度の県管南郷地区ほ場整備事業地となっており、福岡農林事務所から事前調査の依頼があった。計画図に基づいた協議の結果、対象となる古墳の残りが悪いことと、占地在丘陵の高所であるために削平を免れることができないため、1982年度中に緊急発掘調査を実施し、ほ場整備事業は1983年に行うことになった。

発掘調査は1983年2月15日から始めたが、畑地の表土を除去したところ、当初の予測に反して残りの悪いものの総数22基の古墳を確認した。このため年度内での発掘調査事業の完了が困難となったため、急拠、福岡農林事務所との再協議に入り、未調査分については次年度に予算を計上して実施することで合意し、次年度の4月18日～5月29日までの発掘調査で現地作業を完了し、引き続き整理作業に移り、1984年3月31日をもって当該事業を完了した。

発掘調査に伴う費用は、1982・1983年度とも国・県の補助を受けて実施した。

発掘調査は次の組織で行った。

調 査 組 織	
総 括	宗像市教育委員会
	教 育 長 竹原 瑛
	教 育 部 長 白木 国明
	社会教育課長 野中 秀秋
	社会教育係長 竹村 功
庶務・会計	社会教育主事 立石 実
	主 事 城月かよ子
発掘調査	主 事 原 俊一
	囀 託 安部 裕久

発掘調査にあたって、福岡教育事務所社会教育課主査浜田信也氏の応援を得た。また、福岡農林事務所、宗像市南郷土地改良区、宗像市農地整備課の方々には多くの協力をいただいたほか、地元の方々や、調査に参加された方々の御努力に感謝いたします。

第2章 遺跡の地理的環境

遺跡は宗像市の南部、大字朝町字山ノ口に位置する。南に隣接する鞍手郡若宮町の^{なひき}禰山(29.6.9 m)から北西へ派生する丘陵上に古墳群がのっている。遺跡東南の群境を越えた直線距離にして約5kmで竹原古墳に至る。

遺跡の西側の小谷地を挟んだ丘陵の北側尾根線上には4基の円墳が1列に並んでいる。遺跡から谷地を挟んで東北の丘陵頂部から東ないし北へ派生する丘陵上および南側斜面は学校用地の造成に伴う発掘調査が行われている(註1)。さらに北側の谷地を挟んだ丘陵では宅地造成に伴い発掘調査が実施されている(註2)。この遺跡ののる丘陵の谷地最奥部は須恵器窯跡群がある(註3)。当該遺跡地の南側にのびる丘陵上にも古墳の分布がみられる。

当遺跡から下流側には、11世紀を主体とする集落がある(註4)。さらに下流では弥生時代～古墳時代の住居跡が調査されている(註5)。この遺跡から水田を挟んで西側丘陵地は宅地造成に伴って緊急調査が行われている(註6)。大字朝町の地域はここ2～3年の内に宅地造成による開発に伴って多くの発掘調査が実施されていて、調査後に全て消滅している。このため、古墳時代から歴史時代にかけての資料が増加している(註7・8)。一地域としてはかなりまとまりをみせており今後の調査研究において重要な位置を占めているものと思われるが、整理の充分行われている現状ではない。

『和名抄』によると、宗像郡内では14郷が記載されており、宗像市域に限れば安岐・山田・恰土・野坂・荒木の5郷が見える。この中、山田・野坂は現存する地名である。大字朝町は、現在の野坂・光岡・王丸・大穂と共に野坂郷を形成する地名と思われる。野坂郷は宇佐宮永仁5年の文書に筑前国野坂荘、続風土記には宗像郡野坂村高2400石とある。田野坂村域内は、宗像市郡中で最も農業生産力の高い地域といえる。

このことは弥生時代以来の稲作農業の発展過程において、宗像地域においては今日に至るまでなら変化のないものと言える。

野坂地域の東南部を占めるのが朝町地区であり、近年の発掘調査においても、弥生時代以降古墳時代、歴史時代を通じて遺跡が確認されており、宗像における主要な歴史、地理的位置を占める。

註

- 1 浦谷古墳群。1981年発掘調査。調査古墳39基、同じく小石室5基、火葬墓1基、窯跡1基、焼土壇4基、鉄滓埋納遺構1基、赤色顔料埋納遺構1基。消滅古墳3基、未調査古墳5基である。宗像地域の横穴式石室の形成を知る上で良好な遺跡である。5世紀中頃～8世紀。
- 2 朝町百田遺跡。1980～1981年発掘調査。古墳・小石室34基、鉄滓出土遺構2基、土壇19基が検出され、A・Bの2小丘陵に分布しており、古墳群は3～4基を1単位とし1単位内では連続的に

朝町山ノ口遺跡

造営されている。古墳築造における占地規制がよく表われている遺跡である。6世紀後半～8世紀。

- 3 朝町木山遺跡。朝町百田遺跡の調査中に発見された。小さな谷に向かって数基が並列して分布している。採集遺物には小田富士雄編年によるⅣ・Ⅴ期の杯が見られるため、函谷古墳群や朝町百田遺跡の古墳遺物の供給源と考えられる。
- 4 朝町山添遺跡。ほ場整備に伴う発掘調査で、丘陵裾部の平坦地に1本のU字形溝を検出した。溝に伴う建物跡は削平を受けている。溝中から陶磁器、黒色土器、土師器、石鏡等、多くの遺物出土があった。
- 5 朝町町ノ坪遺跡。ほ場整備に伴う発掘調査により、丘陵裾部の標高約15mの低位丘陵面に弥生時代中期の円形住居跡群と6世紀のカマドを付設する方形住居跡群を検出している。
- 6 中松元古墳群。1976～1977年に発掘調査。古墳群の調査であるが委託調査のために詳細不明。福岡教育大学の考古学専攻による現地踏査等から当市の文化財保護行政を問い直す契機となった。
- 7 野坂中山遺跡。ほ場整備に伴って発掘調査された。丘陵裾部の小河川から一段上がった平坦部に掘立柱建物群が検出されている。包含層および柱穴内から、土師器、石製品等が出土している。特に青磁双耳小壺は東南アジア出土品に類例を見出すことのできる遺物である。13～14世紀。
- 8 朝町宮作遺跡。豚舎建設に伴い1985年に発掘調査された。事業地にかかる円墳1基を掘った。横穴式石室を主体部に持ち、内から須恵器、装身具等が出土している。6世紀後半。周辺には同時期の古墳が群集している。



第1図 発掘調査された遺跡 (1/25000)

1. 石丸遺跡
2. 名残遺跡群
3. 朝町木山遺跡
4. 朝町百田遺跡
5. 浦谷古墳群
6. 朝町町ノ坪遺跡
7. 中松元古墳群
8. 朝町山添遺跡
9. 朝町官作遺跡
10. 朝町山ノ口遺跡
11. 野坂中山遺跡

第3章 発掘調査の概要

1982・1983年度の2年次にわたる発掘調査で22基の古墳を検出した。古墳群は標高40m前後の小丘陵の全面に分布している。発掘調査前は畑地となっており、全ての古墳は墳丘を失っていた。このため発掘調査は、主体部と溝の調査に重点をおいた。15号墳のみに天井石が残存していた。宗像地域の古墳の特徴といえる主体部掘り方の深さのために、各主体部とも構造を知ることができた。

次に発掘調査での概要を示したい。

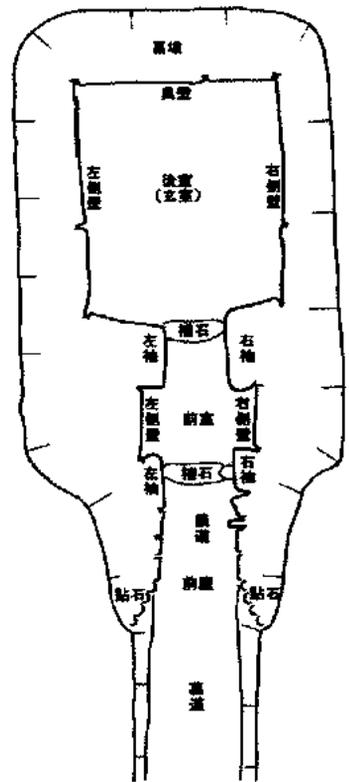
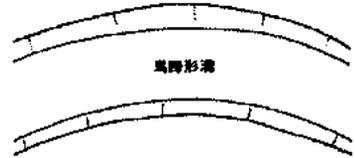
遺構 古墳は全て円墳である。古墳は周溝を失っており、厳密な意味では古墳の規模を捉えるには至っていない。

古墳の主体部は、横穴式石室と小型の竪穴式石室である。8号・10号墳については、明らかにできなかったが、横穴式石室を主体部とするものであろう。横穴式石室の開口方向は、西を除き各方向を向いており、バラエティに富んでいる。横穴式石室は、複室、単室、無袖に分けられる。単室横穴式石室の玄室プランは長方形、正方形、横長形と分けられ、多種にわたっており、当該時期の横穴式の展示場の如き様相を示している。

遺物 各古墳からの出土遺物は、石室内、墓道、溝からのものである。その他には、表土除去時における採集遺物がある。本来は、墳丘および、地山整形に伴う遺物の出土が当然考えられるのであるが、調査時の状況からは無理であった。土器は須恵器、土師器で大半が墓道、溝からの出土である。

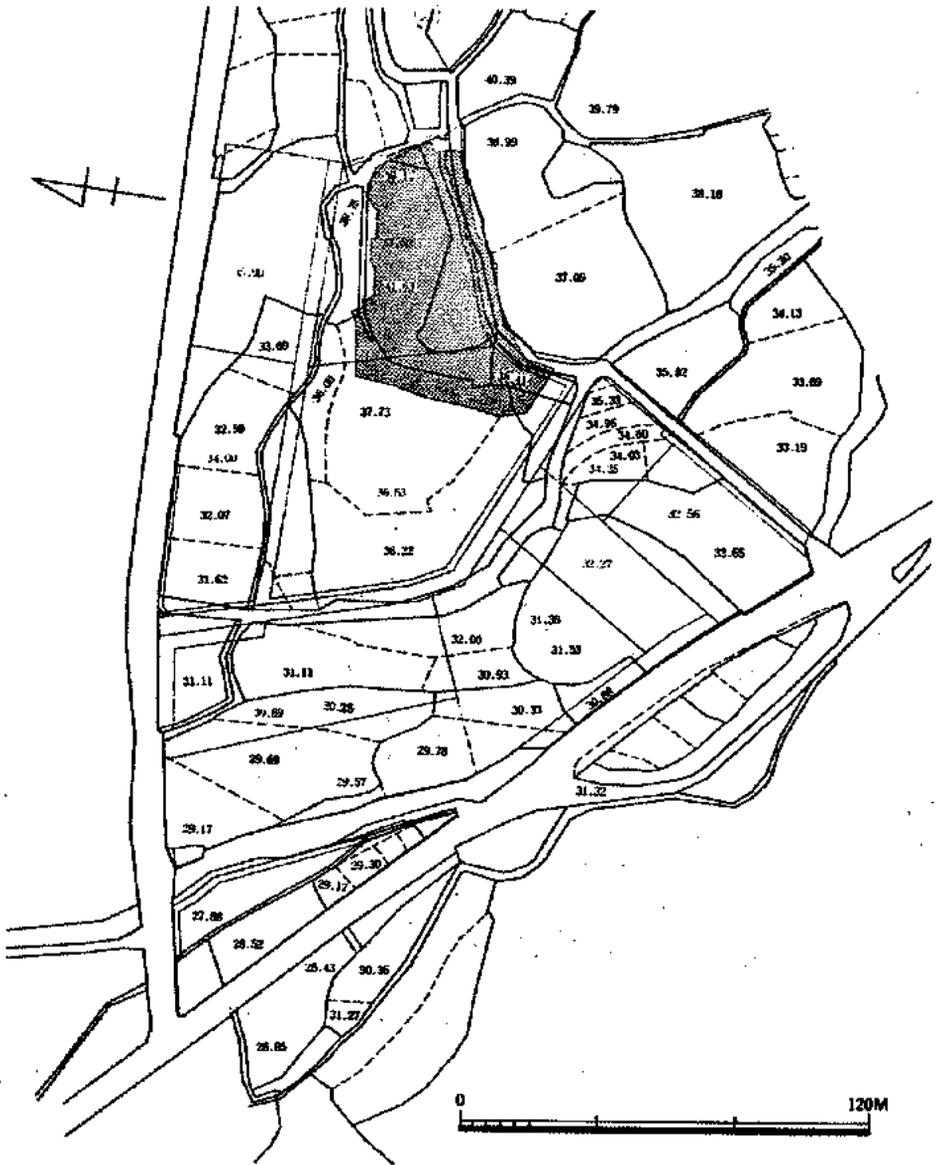
第3・15号墳の玄室からは中世に石室を再利用したと思わせる土師質土器と瓦器を検出している。

各古墳からの出土遺物は、須恵器、土師器の他、鉄鋸、鉄錐の鍛冶工具、鉄刀、刀子、鉄鏃等を出土している。特に鍛冶工具の出土は、当遺跡の性格を物語る重要な出土遺物といえる。



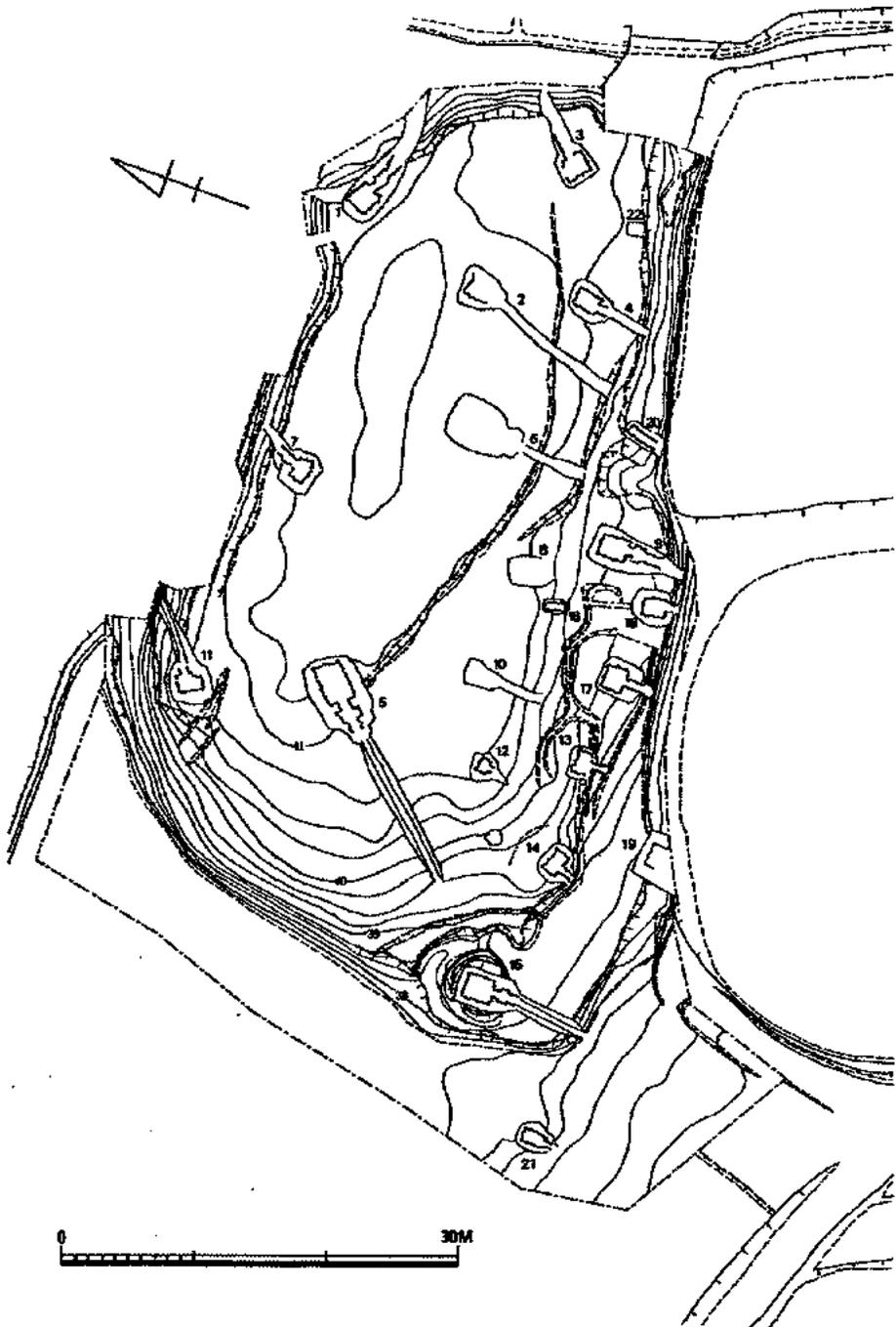
第2図 遺構の名称

朝町山ノ口遺跡

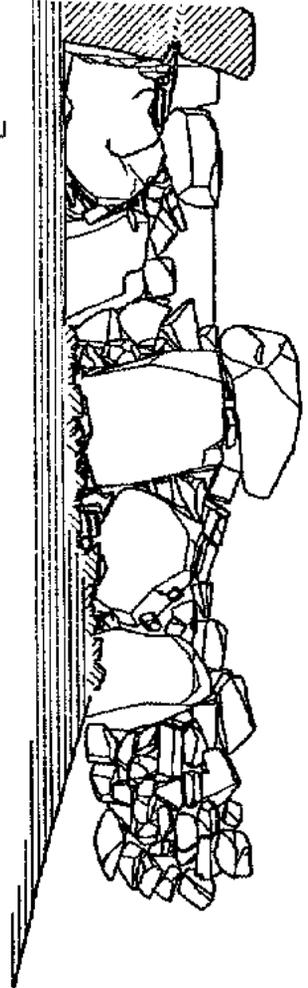
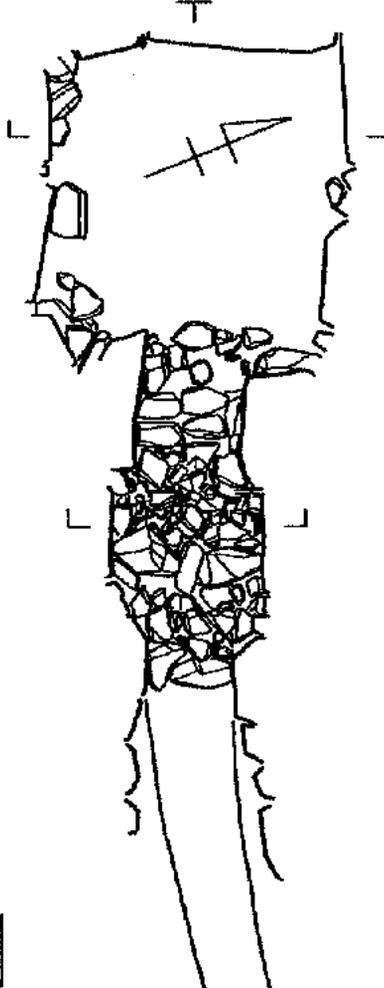
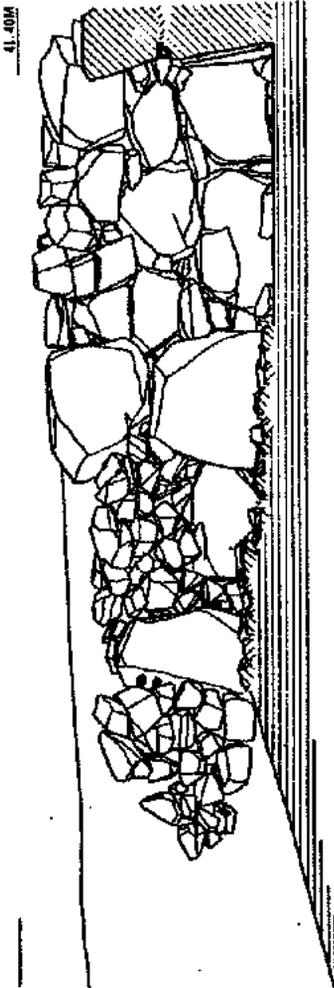
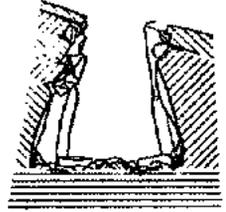
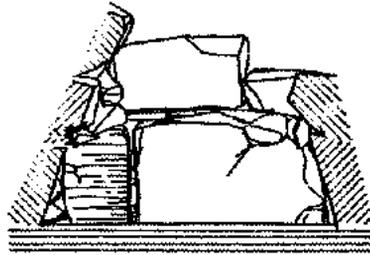


第3図 調査区図 (1/2000)

朝町山ノ口遺跡

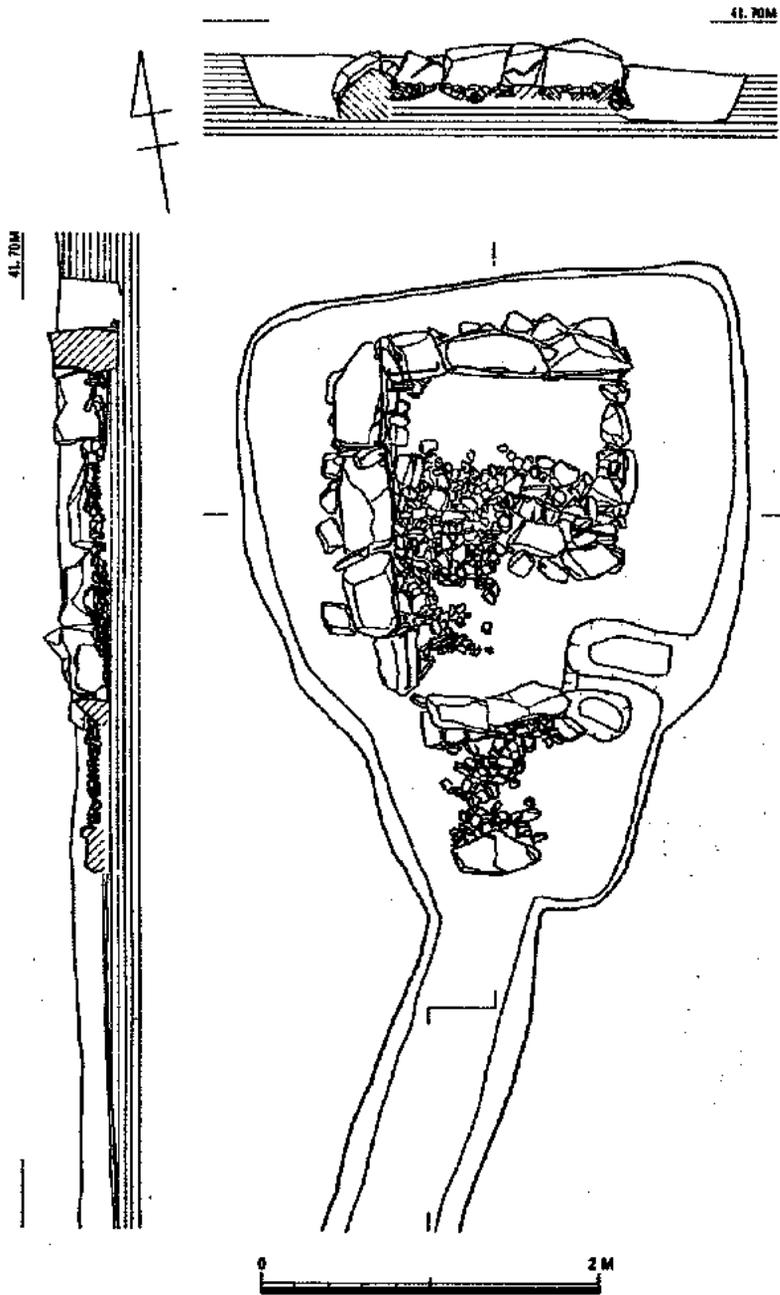


第4図 遺構配置図 (1/500)



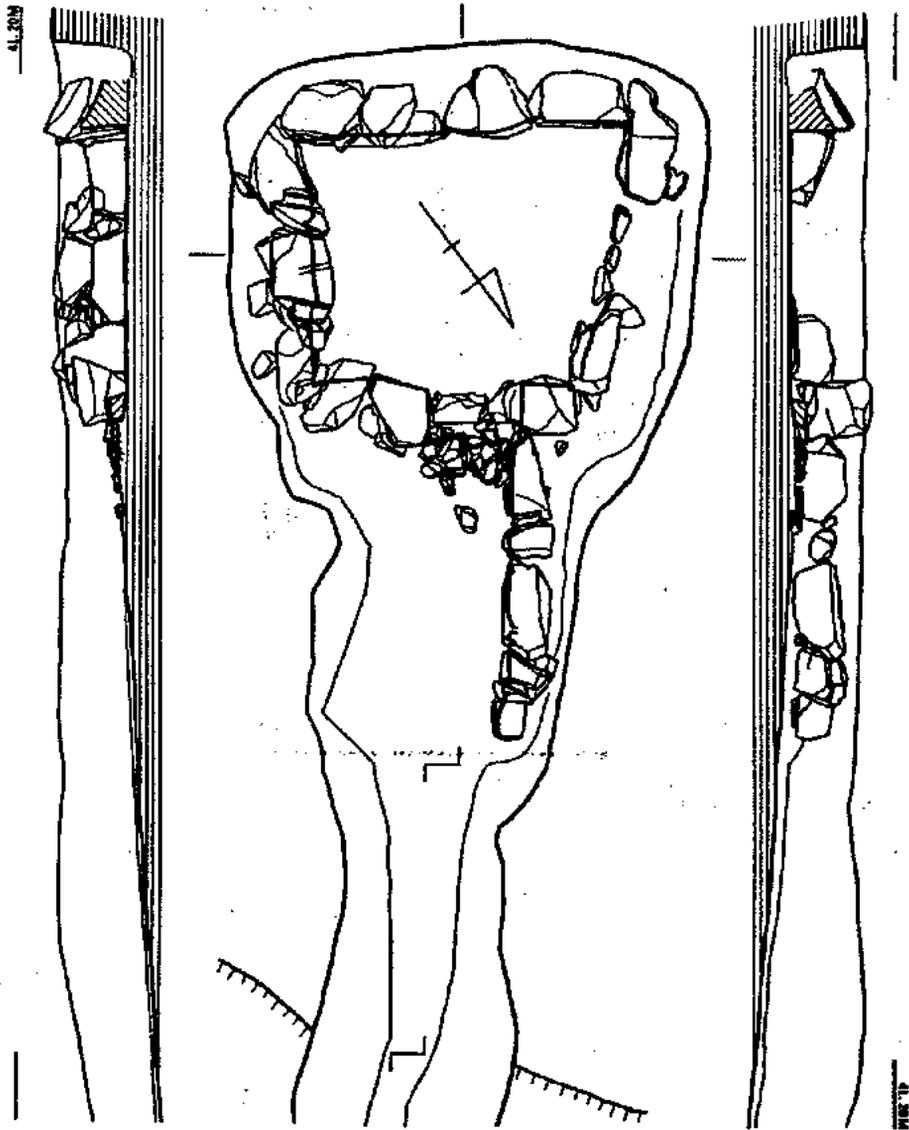
第5図 1号墳主体部実測図 (1/40)

朝町山ノ口遺跡

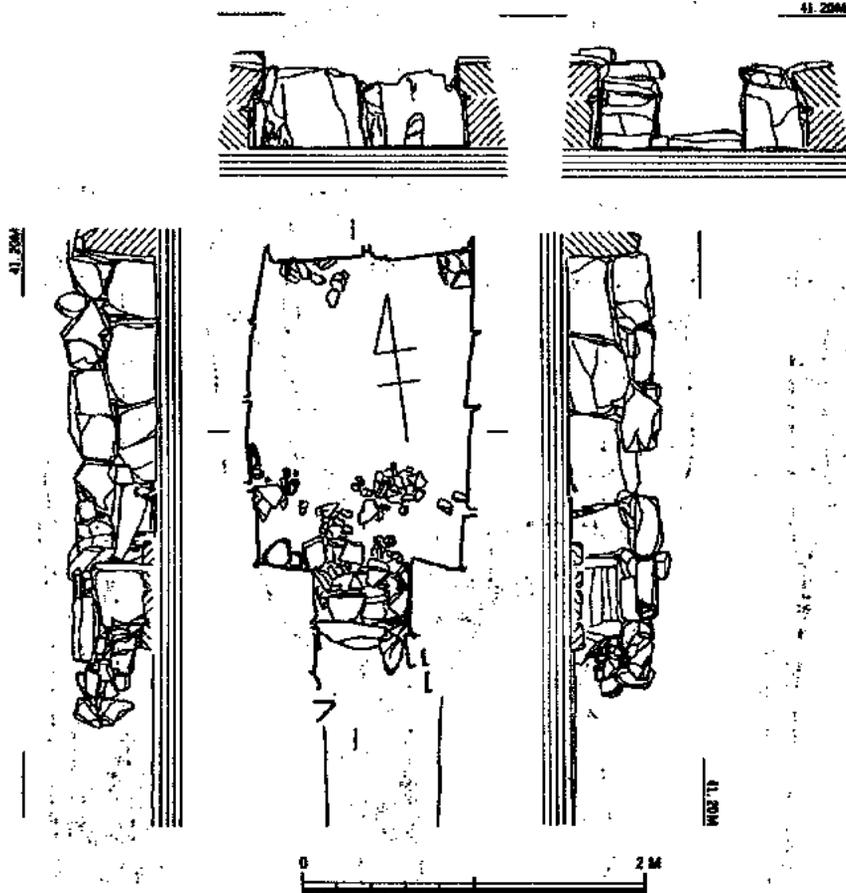


第6図 2号墳主体部実測図 (1/40)

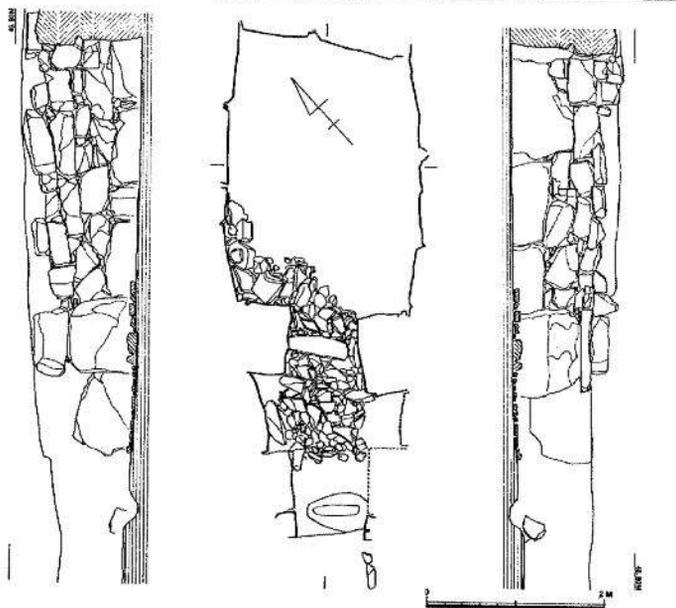
41.20M



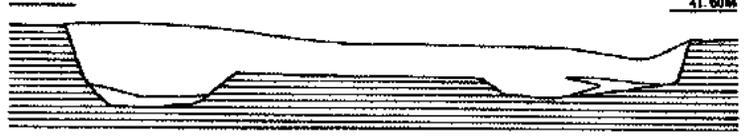
第7図 3号墳主体部実測図(1/40)



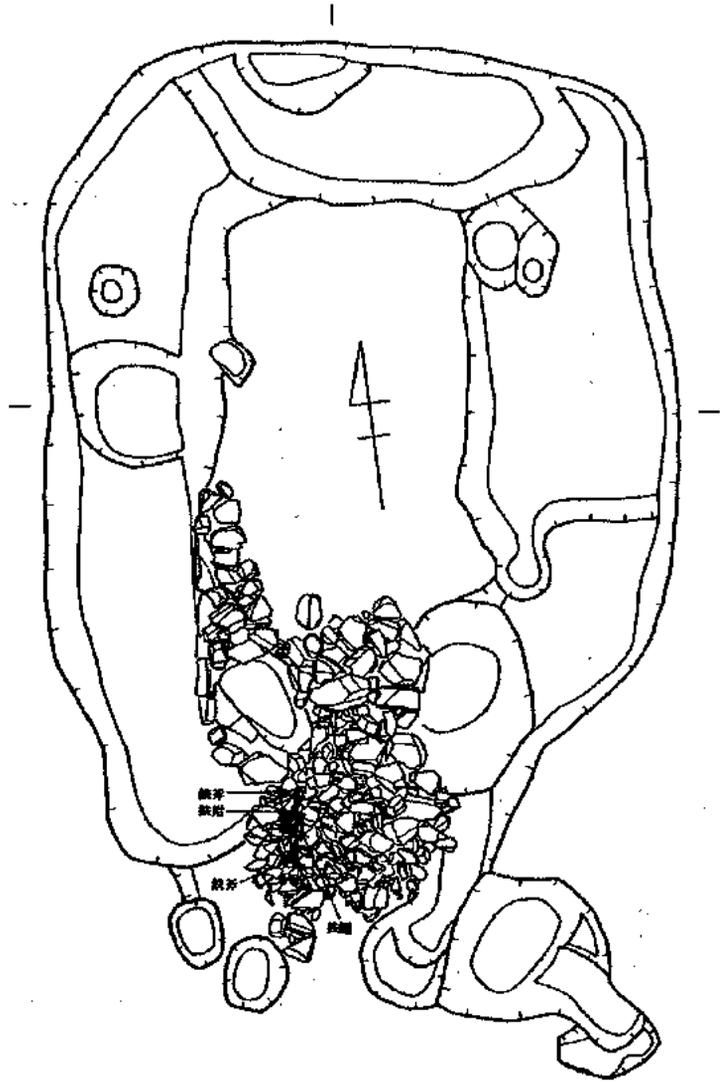
第8図 4号墳主体部実測図(1/40)



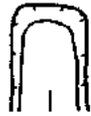
第9图 5号坟主体部平面图 (1/40)

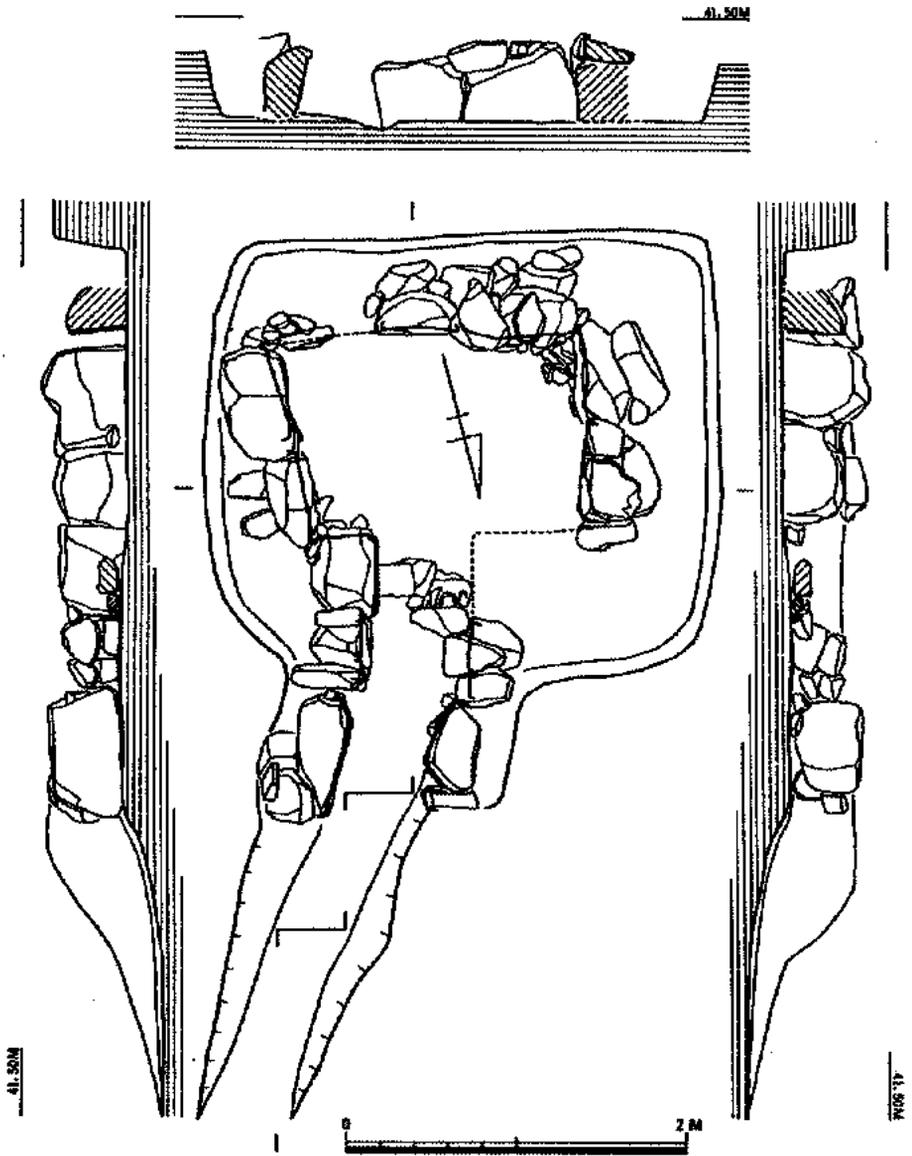


41.60M



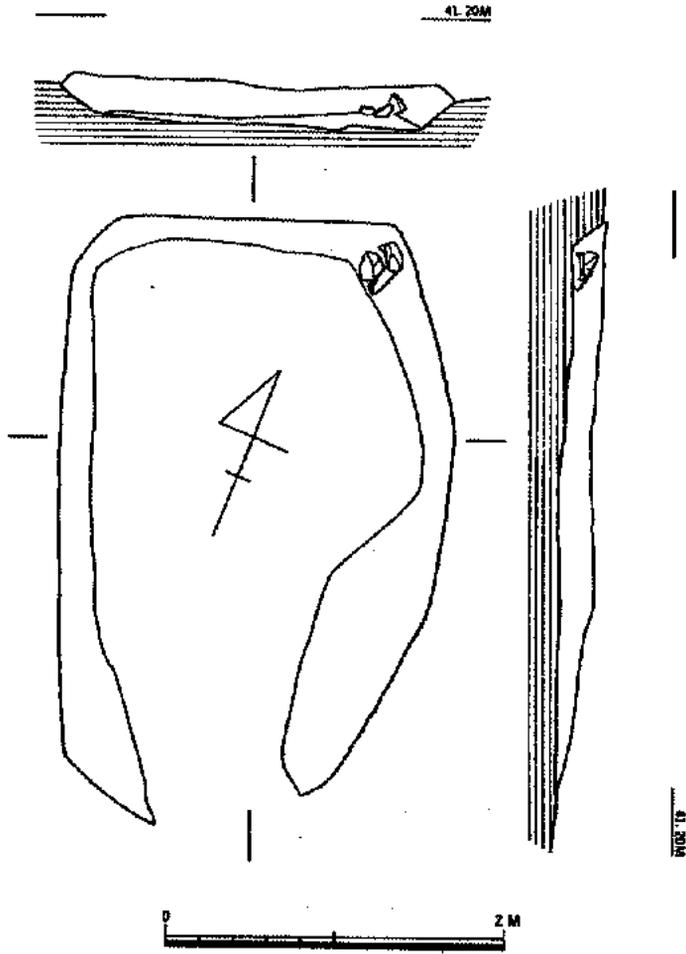
鏡弁
鏡附
鏡弁





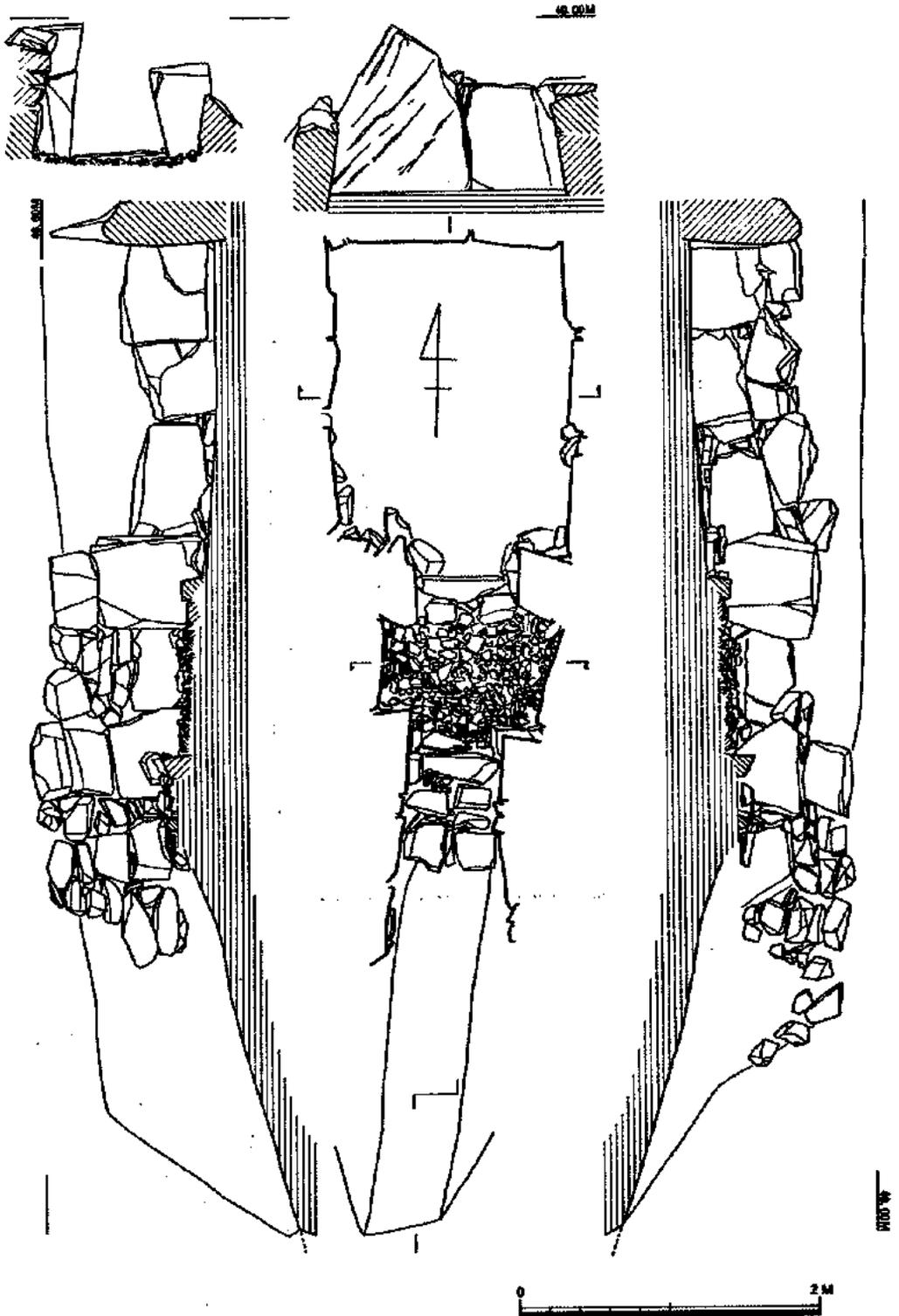
第11図 7号墳主体部実測図(1/40)

朝町山ノ口遺跡



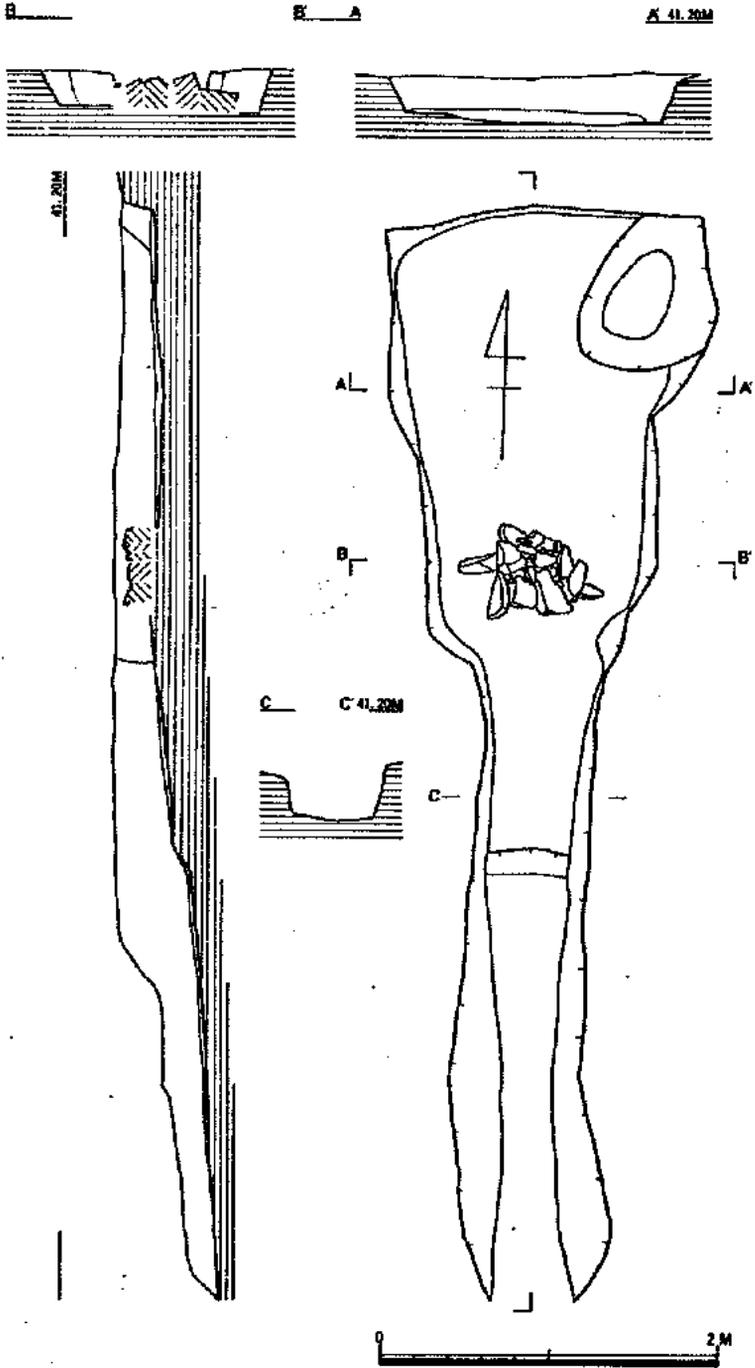
第12図 8号墳主体部実測図(1/40)

朝町山ノ口遺跡

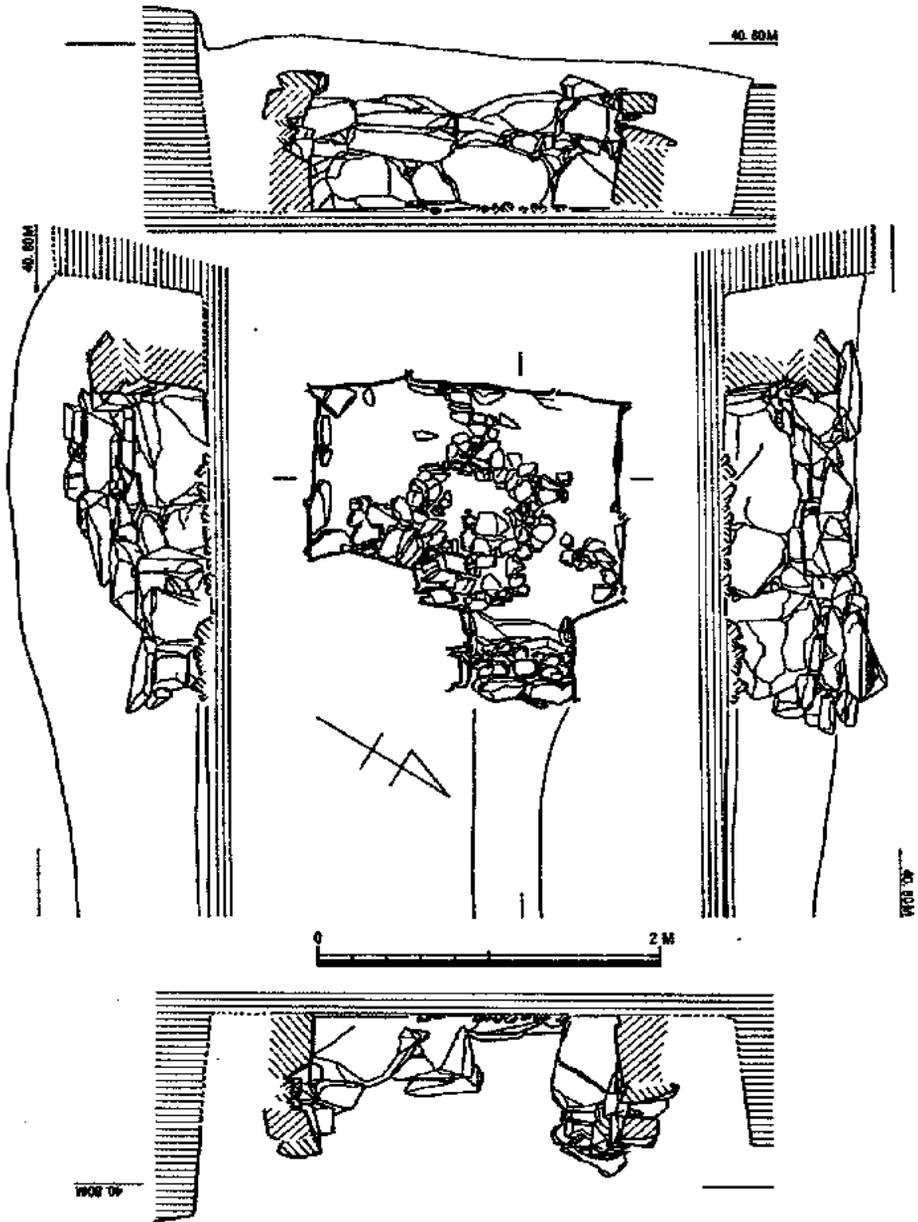


第13図 9号墳主体部平面図 (1/40)

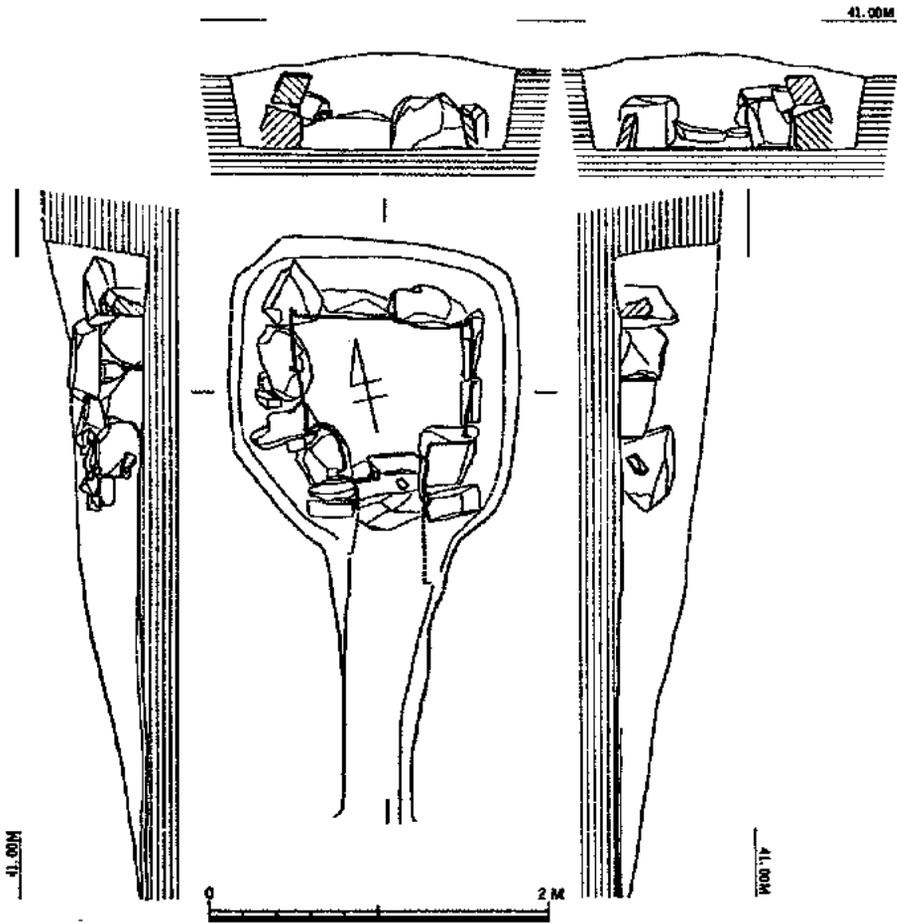
朝町山ノ口遺跡



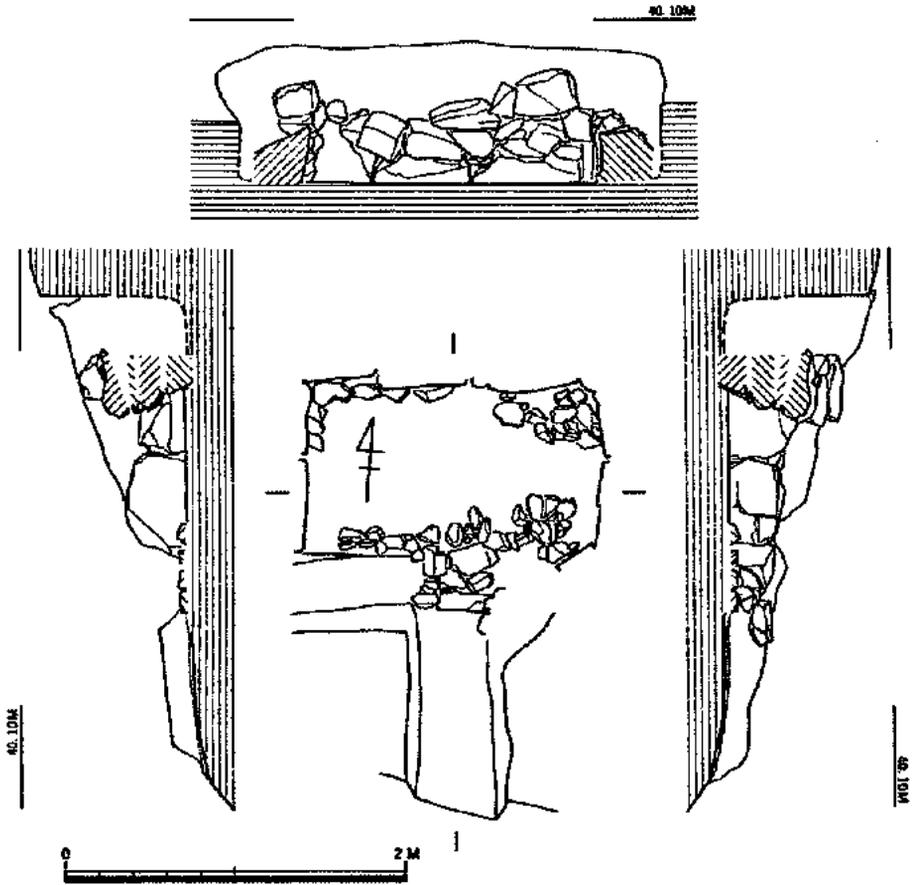
第14図 10号墳主体部実測図 (1/40)



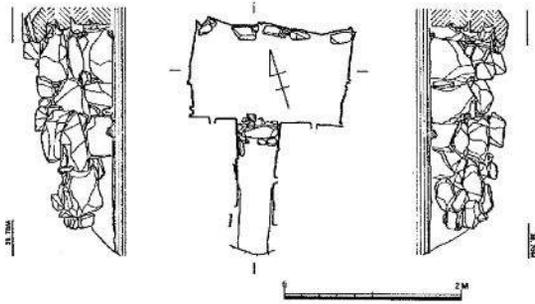
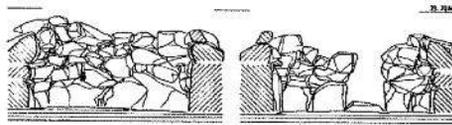
第15図 11号墳主体部実測図 (1/40)



第16図 12号墳主体部実測図 (1/40)



第17图 13号墳主体部実測図 (1/40)



第186图 14号塔主体部立面图(1/40)

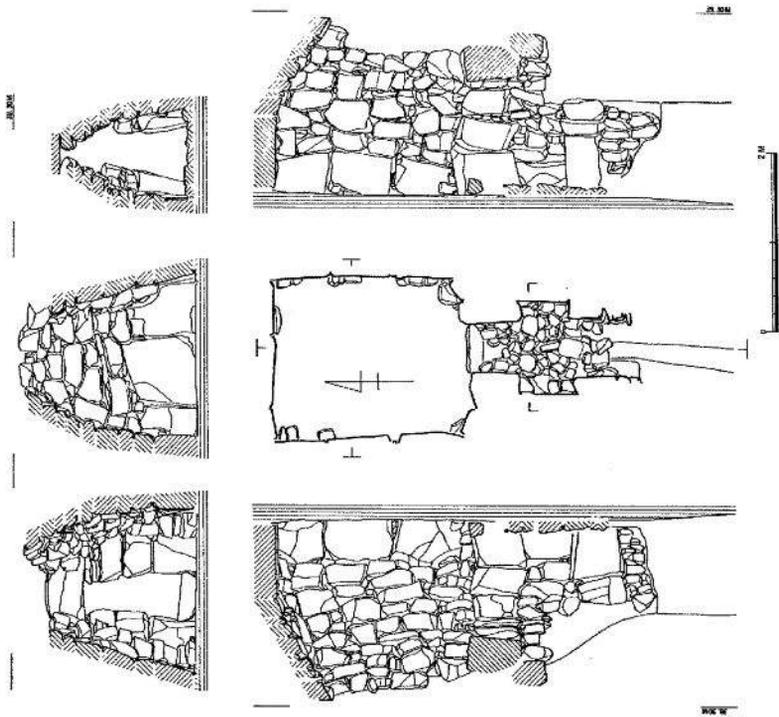
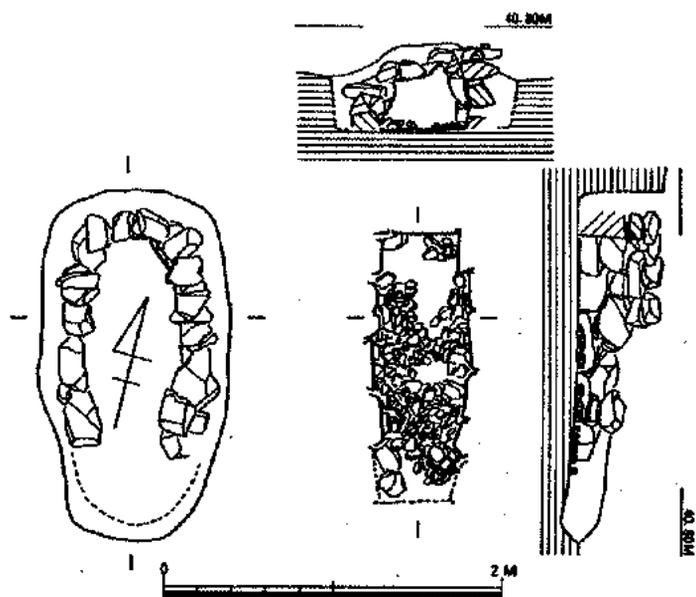
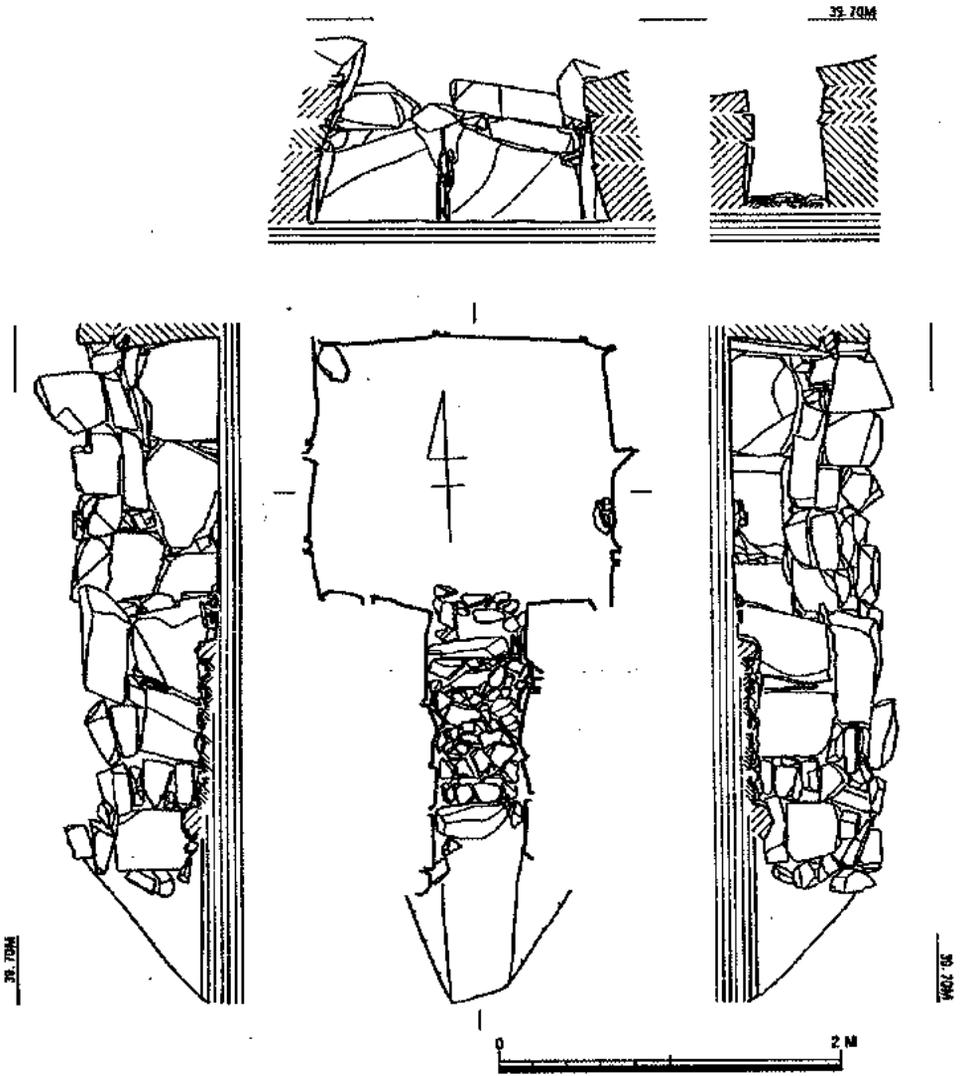


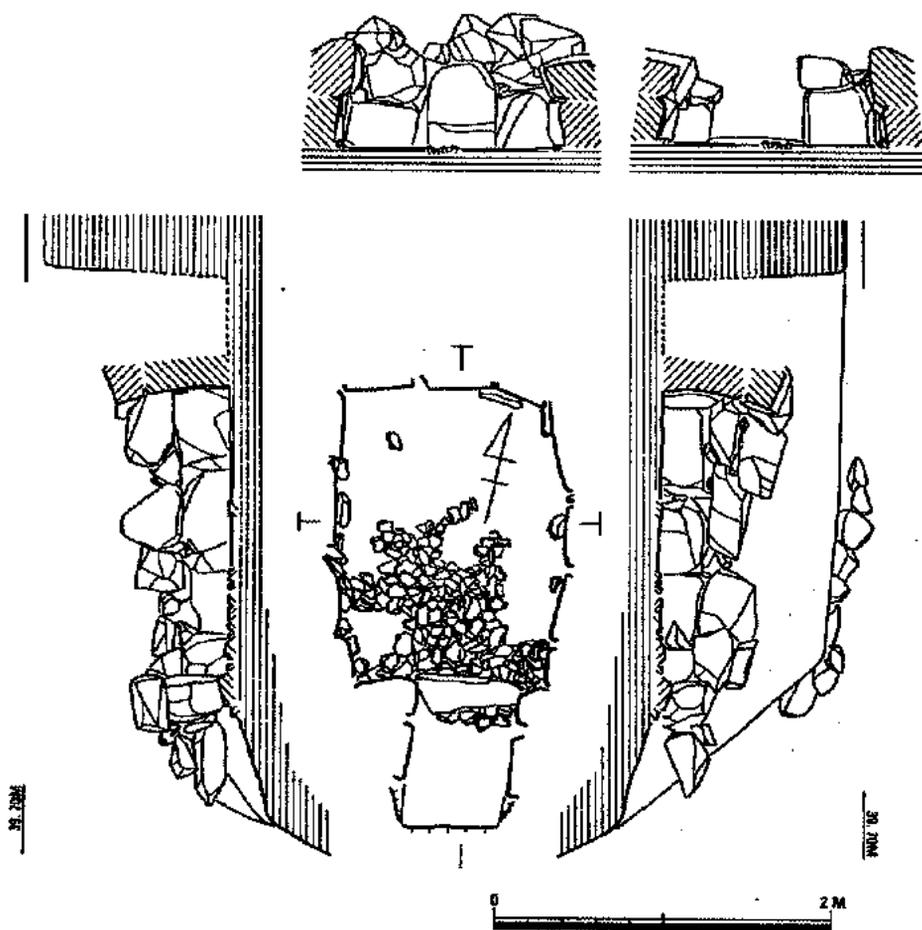
图1960 15号洞主体部分复原图 (1/40)



第20図 16号墳主体部実測図 (1/40)



第21図 17号墳主体部表測図 (1/40)



第22図 18号墳主体部突砌図 (1/40)



1号墳

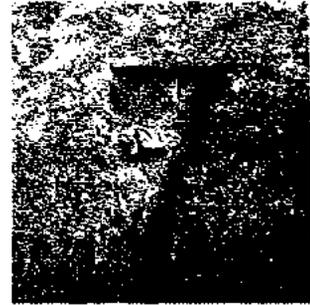
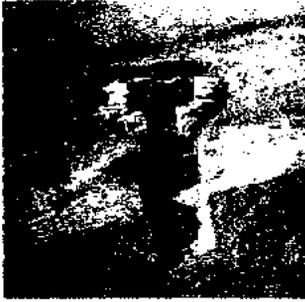


2号墳



3号墳

朝町山ノ口遺跡



4号墳

5号墳

6号墳

7号墳

9号墳

10号墳

11号墳

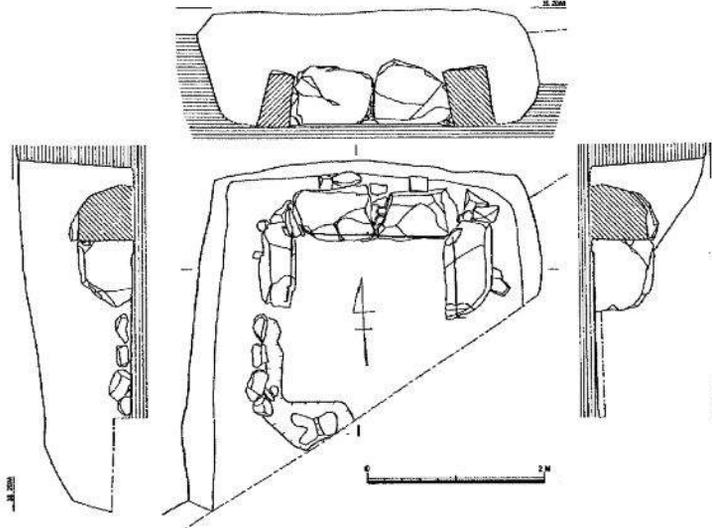
12号墳

13号墳

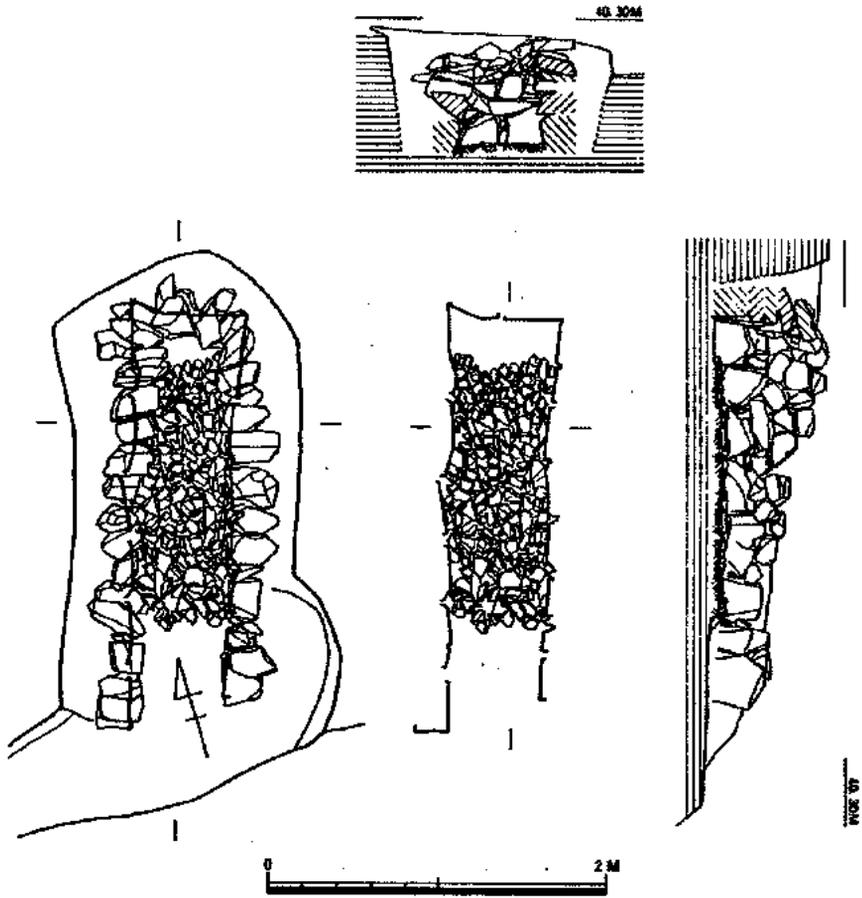
14号墳

15号墳

16号墳

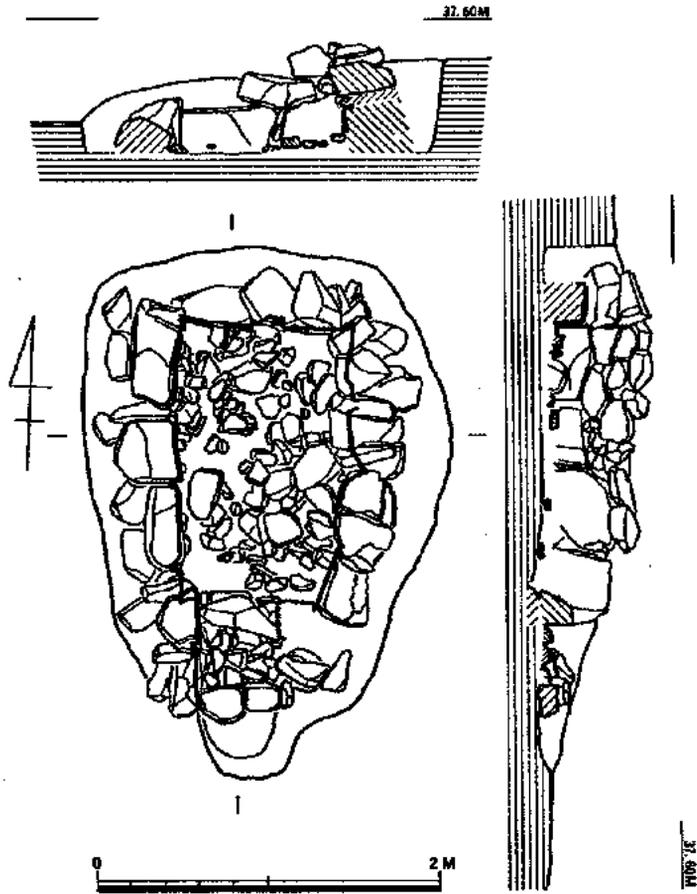


第228图 19号墓主体部分平面图 (1/40)



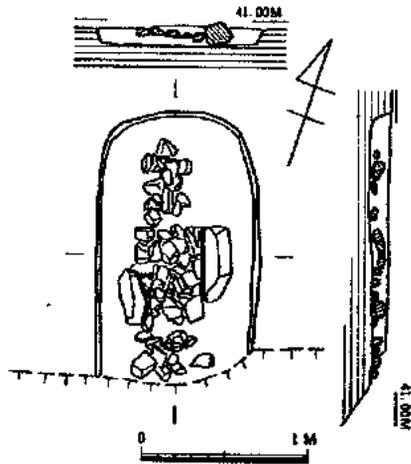
第24図 20号墳主体部表測図 (1/40)

朝町山ノ口遺跡



第25図 21号墳主体部実測図 (1/40)

朝町山ノ口遺跡



第26図 22号墳主体部実測図 (1/40)



17号墳
20号墳

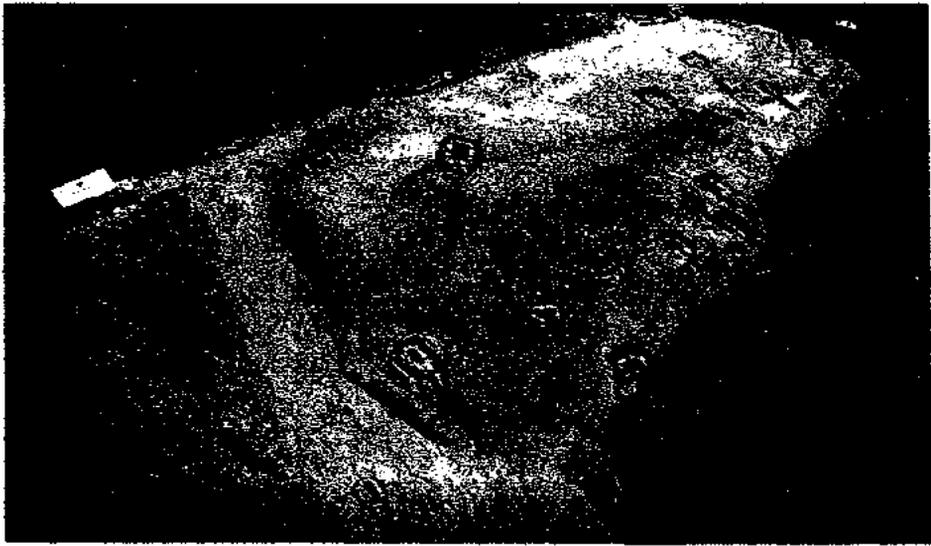
18号墳
21号墳

19号墳
22号墳

朝町山ノ口遺跡



発掘調査前（北西から）



発掘調査後（北西からの空中写真）

宗 像

朝 町 山 ノ 口 I

宗像市文化財調査報告書 第 14 集

1984年 3 月 31 日

発行 宗像市教育委員会
福岡県宗像市大字東郷985番地

印刷 釜 瀬 印 刷
福岡県宗像市河東